

停電時の屋外設置ボイラー（Fact）の凍結予防について

製造メーカー	リンナイ株式会社
主 な 型 式	・RUFH-EM2402AH2-1KT

《ご注意》

本製品は、停電時の水抜きを想定しておりません。本水抜き方法は、ガス機器の被害を最小限に抑えるためのものです。通常（通電）時の水抜き方法については、取扱説明書をご参照ください。

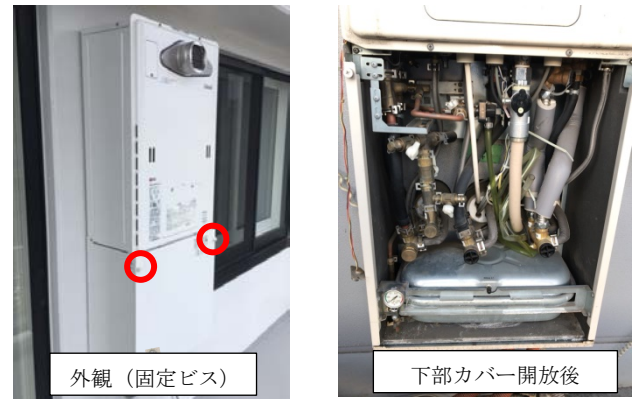
外気温が氷点下の場合、温度、風の有無等の状況によって停電後1～2時間程度で凍結する可能性があります。凍結による破損防止のため最低限の水抜きをお願いします。

お使いの給湯・暖房システムは、

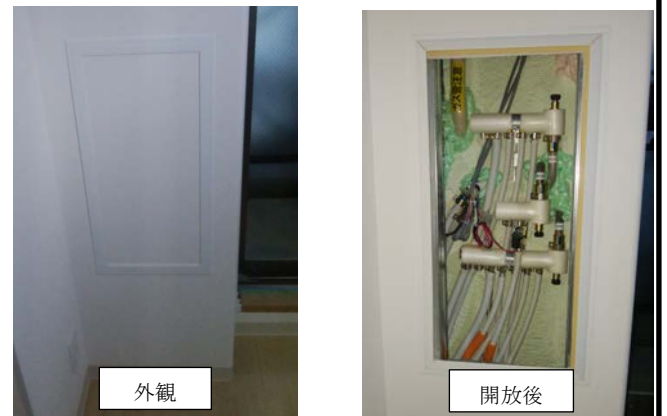
- ・屋外設置のボイラー本体（給湯系統および暖房系統）
- ・室内点検口内の配管等（ボイラーのおおよそ裏側）で構成されています。

暖房系統については、不凍液を使用しており、停電時においても凍結の心配はありません。

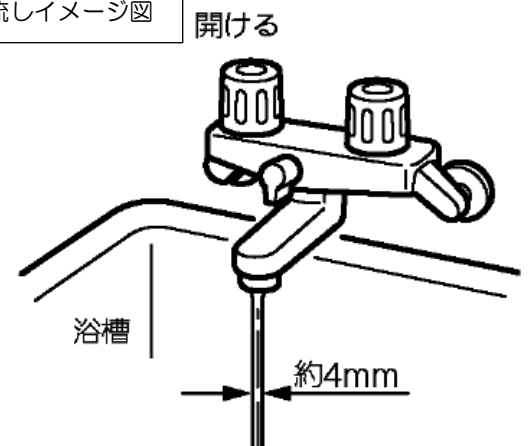
写真A：屋外設置ボイラー（Fact）



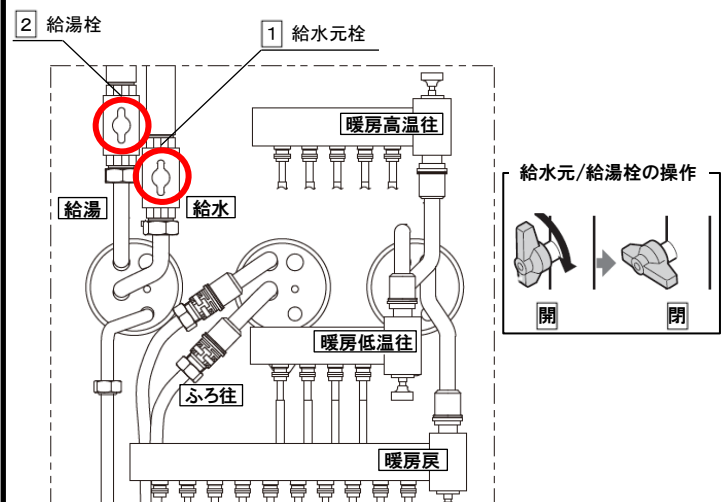
写真B：室内点検口（例）



浴槽への水流シイメージ図



写真B. 室内点検口、構成図



停電時に凍結を予防するためには：

① 水道が通じている（断水していない）場合

水抜きの必要はありませんが、給湯栓を開け1分間に約400ミリリットルの水を浴槽に流しておいてください。

- ※ サーモ付やワンレバーの混合水栓の場合は、設定を最高温度の位置にしてください。
- ※ 浴槽の近くに給湯栓がない場合は、シャワーホースを浴槽まで伸ばしてシャワー栓を開けてください。

【注意点】

- ・水量が不安定なことがあります。念のため、30分くらい後にもう一度水量をご確認ください。
- ・サーモ付やワンレバーの混合水栓の場合は、再使用時の設定温度にご注意ください。

② 水道が通じていない（断水している）場合

給湯系統の水抜きの必要があります。

1. 水抜き準備

- ① 室内点検口（写真B）を開ける。
- ② 給水元栓①を閉める。
- ③ 給湯栓②を閉める。

※注1）室内点検口の開け方は4、5Pを参照

2. 水抜き操作

- ① ボイラー下部のカバー（写真A）を開ける。（固定ビス2ヶ）
- ② 給水・給湯回路水抜き栓³をはずす。
- ③ ふろ回路水抜き栓⁴をはずす。
- ④ 中和器水抜き栓⁵を水が出てくるまでゆるめる。

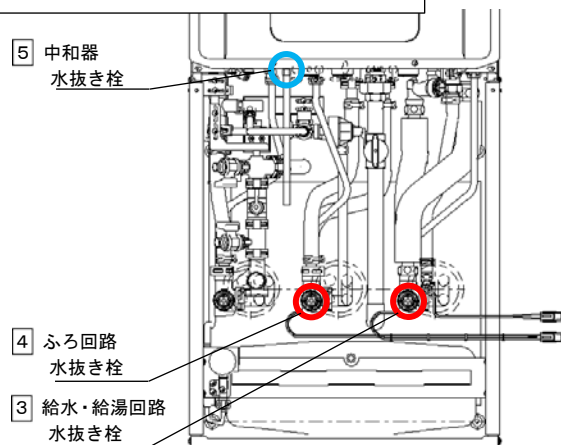
※注2）水抜き栓の操作方法是右図参照

- ⑤ 水が出なくなったらはずしたすべての水抜き栓³, ⁴, ⁵を閉める。

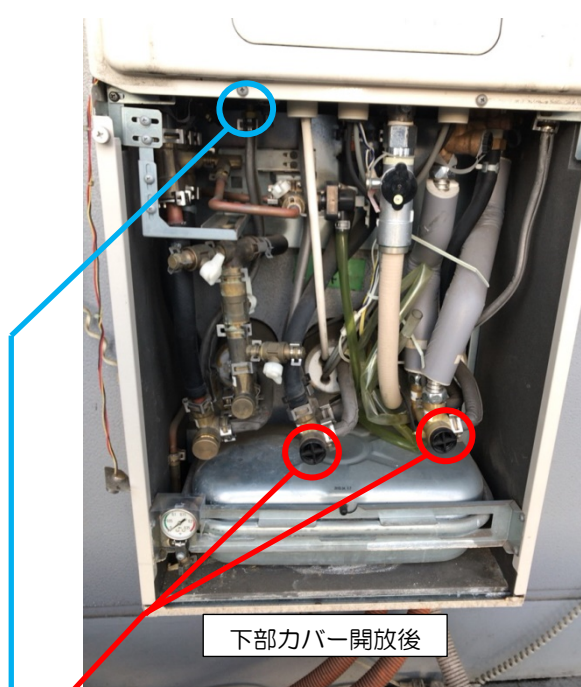
3. 水抜き後の操作

- ① ボイラー下部のカバー（写真A）を閉める。
※注3）カバーを閉める際の注意事項を参照（3P）
- ② 室内点検口（写真B）を閉める。

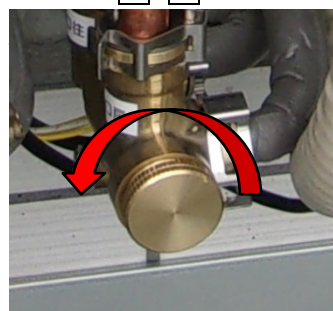
写真 A. 屋外設置ボイラー下部、構成図



※注2）水抜き栓の操作方法



・水抜き栓³, ⁴の操作方法



水抜き栓のギザギザ部分を持ち、左に回して外してください。

・水抜き栓⁵の操作方法



※回しすぎないよう注意してください。外れたり、隙間から水が漏れたりします。
黒い部分を左に回して、緩めてください。

電気復旧後《水抜き》した機器を使うときは：

水漏れ等の異常が見られた場合、すぐに操作を中止して、北ガスまでご連絡ください。

1. 給湯側に通水する。

- ① 室内点検口（写真B）及び、ボイラー下部のカバー（写真A）を開ける。
- ② 電源プラグをコンセントから抜く。
- ③ すべての水抜き栓³, ⁴, ⁵が閉まっていることを確認する。この時、シャワーや蛇口も閉まっていることを確認する。

- ④ 給水元栓¹をゆっくり開ける。

※給水元栓を開ける際は、ボイラーおよび下部のカバー内を確認しながらゆっくり開けてください。

- ⑤ 給湯栓²を開ける。

- ⑥ シャワーや蛇口を開け水が出ることを確認する。

2. ふろ側に通水する。

- ① 電源プラグをコンセントに差し込む。
- ② リモコンの運転スイッチを押して「入」にする。
- ③ リモコンの自動スイッチを押してふろ自動を運転する。浴槽の循環アダプターからお湯が出ることを確認する。
- ④ 室内点検口（写真B）及び、ボイラー下部のカバー（写真A）を閉める。

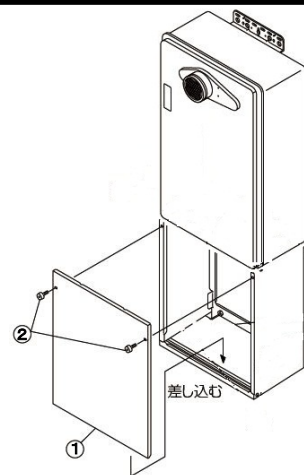
※注3）カバーを閉める際の注意事項を参照（3P）

※注3) ボイラー下部カバーを閉める際のご注意

右図の手順①→②にしたがって、カバーを取り付けてください。

- ① カバー（ふた）を本体下部に差し込む。
- ② 固定ビス（2ケ）によりしっかりと固定する。
- ③ 取付後、カバー下部の両端を手前に引張り、しっかりと固定されていることを確認する。

差し込まれていないと風で飛ばされる可能性があり、大変危険です。



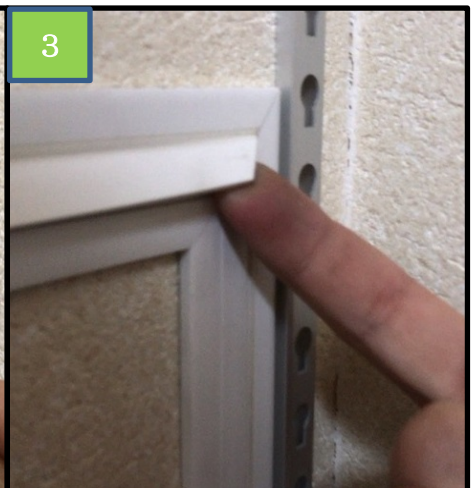
※注1) 室内点検口の開け方（ビスあり）



点検口はボイラーのおおよそ裏側に設置されています。
※建物により点検口の大きさは異なります。



赤い○で囲った部分をマイナスドライバー等の先が細いもので煽ります。



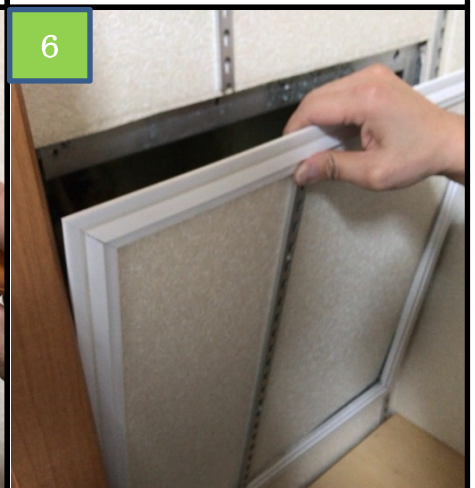
上図のように樹脂部分を持ち上げます。



上辺を図のように完全に持ち上げます。



中に複数のビスがありますので、外してください。上下左右すべての辺で同じ作業を行ってください。



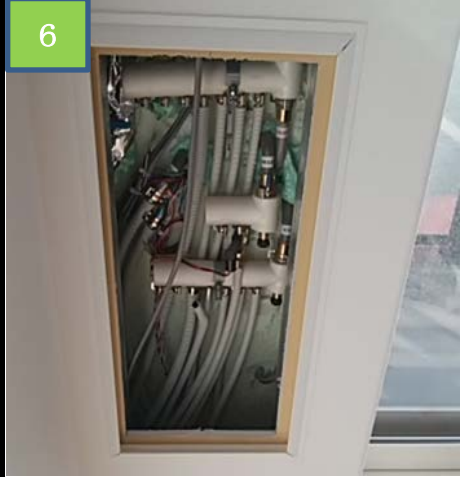
白い樹脂枠とふさぎ板が両方外れます。これら2つは固定されていないので、注意して外してください。



白い樹脂枠とふさぎ板を完全に取り外します。

※ふさぎ板取り付けの際は、上記手順の逆を行います。

※注1) 室内点検口の開け方（ビスなし）

1 	2 	3 
点検口はボイラーのおおよそ裏側に設置されています。 ※建物により点検口の大きさは異なります。	赤い○で囲った部分をマイナスドライバー等の先が細いもので煽ります。	上下左右すべての辺について、樹脂部分を持ち上げます。
4 	5 	6 
壁に傷をつけないよう、樹脂枠を持ち上げながらふさぎ板を取り出します。その際、壁に傷をつけないよう注意してください。	ふさぎ板を壁に接触させないように注意しながら取り外します。	ふさぎ板取り外し後

※ふさぎ板取り付けの際は、上記手順の逆を行います。